

地域おこしめっせ 2017

～地域ブランドを掘り起こす印刷会社と仲間たち～

事業報告書

2017.10.20

一般社団法人日本印刷産業連合会

『地域おこしめっせ 2017』事業報告書

一般社団法人日本印刷産業連合会は、2015年にグランドデザインの策定とともに、印刷産業の価値創出に向けた取り組みを推進し社会的責任を果たすうえでの重要課題の一つとして、地域創生への意欲的な貢献を掲げてきた。とりわけインバウンド事業の拡大とともに、各地域の文化資源や産業資源を魅力あふれる地域資源として掘り起すと同時に、地域のブランド化をおし進め、情報資源として一般に公開していくことを重要なテーマとして検討してきた。一方、デジタル化の波はSNSなど益々多様なコミュニケーション社会を産出し、印刷産業は新たな情報産業としての役割が増大している。その要請に応えるために、印刷産業はこれまで以上に柔軟な発想が求められ、様々な「知」の連携が求められている。本イベントはこうした時代の要請に応えるために、まず第一歩として、自ら企画発案し社会に提言する印刷産業の真摯な指針を打ち出すものであり、以下の3つの目的とともに、本イベントの実施計画を遂行してきた。

(目的)

(1) 地域おこしのモデルを示す

日本の地域社会が産み出してきた多様な文化や結びつきを掘り起こし、継続的に社会に提示していくことが重要である。それと同時に、ワークショップや展示会で紹介される様々な事例を手掛かりに、地域おこしの新たなモデルを企画検討していく機会とする。

(2) 情報の共有化による地域おこし事業の連携強化

地域の文化貢献活動や産業復興に向けた印刷産業の新たな手法や展開力に注目しつつ、印刷業界の連携強化にとどまらず、業界を超えて多くの皆様とともに情報の共有化を図ることで、地域ブランド力強化に向け地域と連携した様々な活動を広く展開していくための第一歩とする。

(3) 印刷産業が地域おこしをリードする新しい仕組みを考える

印刷会社が地元の商店街組合、商工会議所、観光協会、大学等々との連携を進めることにより、これまで様々な地域活性化プロジェクトが展開されてきた。さらに今後、継続的に各地域との連携を進めるために地域との新たな枠組みをいかに構築していくかが重要なポイントになる。そのための企画検討を多くの皆様とオープンに考える機会とする。

(実施内容)

主催：日本印刷産業連合会

共催：大阪府印刷工業組合

後援：観光庁、経済産業省近畿経済産業局、大阪市、大阪商工会議所

①特別シンポジウムとパネルディスカッション（9月15日）（会場：太閤園）

- ・東京理科大学専門職大学院・生越由美教授による地域ブランド戦略と地域創生に関する基調講演は本イベント全体を総括するにふさわしい内容で、特に関西のブランド開発に向けた今後の取組みなど具体的な示唆を頂いた。パルマハムやボルドーワインなど国際ブランドとして1000億円の経済規模を確立している点を指摘。一方、日本ではブランドに対する意識の低さなどを鋭く分析。
- ・後半のパネルディスカッションでは、まず4人のパネラーがそれぞれ取組内容を発表。第一印刷(株)西原孝太郎氏は社内プロジェクトによるバリィさんの誕生の経緯や商標化の実施プロセスなど具体的に紹介し、2012年のゆるキャラグランプリ獲得に至った社員たちの努力などを語った。兵庫県立大学大学院の秋山秀一氏と凸版印刷関西 TIC の山本小百合氏は、尼崎の尼いもんプロジェクトの背景、特に大学院の中国人留学生による調査活動への支援協力について紹介した。また神戸元町商店街への取材活動などを通じた地元との粘り強い関わりなどについて話された。秋田印刷製本(株)の大門一平氏は、秋田米作農家との緊密な関係を通じて単一農家米ブランドを誕生させることができた背景として、地元の企業だからこそ地元の資源の掘り起しを行い、商品開発が行うことができた点を挙げられた。4氏の発表の後、生越教授も加わって以下の3つのポイントについて検討を行った。
 - a.「地域と密着するための秘訣はなにか？」
 - b.「地域ブランド戦略に向けた経営資源（リソース）の有効活用について」
 - c.「インバウンド事業拡大に向けた＜地域連携印刷サービス事業＞の可能性」について、それぞれパネラーの豊かな経験値や理念、思いを語り、地域おこしを実際的に進める上で、極めて説得力のある意見交換の機会となった。特に継続的にプロジェクトを行う点や地元との密接な関係性を構築する点、またプロジェクトを動かす点での社員の育成や忍耐が重要である点など、大門氏をはじめ各氏が共通して挙げられた。
- ・シンポジウム終了後は、観光庁観光地域振興部観光資源課の太田雄也課長補佐、経産省近畿経済産業局クリエイティブ産業ユニットの松本じゅん室長補佐、(株)電通関西支社日下慶太氏を来賓としてお招きし、レセプション交歓会をとりおこなう。日下慶太氏による大阪商店街活性化や「印刷」の持つ重要なメディア性への熱いメッセージを込めた乾杯のご発声ののち、参加者相互の情報交換の場となった。

②展示会（9月27日～30日）とワークショップ（9月27日～29日）（会場：大阪国際交流センター）

- ・27日は、日印産連神戸専務理事による高らかなオープニング宣言に続いて、バリィさん（第一印刷）、つばさくん（博光福社会）の共演による来場者とのなごやかなコミュニケーションの場となり、展示会場周辺全体が明るく盛り上がりを醸し出す演出となった。

- ・展示会場では、22 小間の展示ブースながら、地域ブランドや地域連携、・インバウンド事業の事例、SNS など新しいメディアを活用した事例など、自社固有技術を活用しながらそれぞれ地域の特色を醸し出す事業モデルなど興味深い活動内容を紹介している。
- ・ワークショップでは、6 名の講師から、それぞれ専門的に取り組んでこられた地域活性化や地域ブランディングの独創的な事例をご披露頂き、他では得られない貴重な講習の機会となり、また参加者から多くの質問もあり、充実したワークショップとなった。
- ・日本印刷産業連合会ホームページ <https://www.jfpi.or.jp/topics/detail/id=2929> において紹介し、多方面への告知を図るとともに、集客促進を図った。

《展示会概要》

■地域ブランドゾーン

- ・共同印刷（株）は、新潟（糸魚川市）他、その土地にしかない魅力の発掘・発信を実現する地域ブランディングのサポート手法を紹介した。
- ・（株）興栄社は『東京の名湧水 57 選』に選定されている神津島の「多幸湧水」と、古くから養蚕業で利用され、現在では野生林となっている「桑の木」を融合し、観光客の「手漉き和紙体験」の実施と、桑の葉等の地産品を使ったグラノーラ製造を紹介した。東京都地域中小企業応援ファンドの助成対象事業に選定されている。
- ・（株）マルモ印刷は、昔ながらの郷土玩具を文具で甦らせ、その文具たちを展示紹介している。讃岐（香川県）の郷土玩具には、そのひとつひとつに「健康・家内安全・開運・豊作・商売繁盛」などに祈りが込められているという。
- ・第一印刷（株）は、今治市の特色をアピールするご当地キャラ、「バリィさん」グッズを中心に、カレンダーやペーパークラフト製品などを紹介した。社内プロジェクトチームにより誕生したバリィさん他、キャラクター事業を紹介している。

■地域連携・インバウンドゾーン

- ・（株）文伸は、「人に伝える・人とつながる」をお手伝い〜をキャッチコピーにしているように、地域密着型コミュニケーション支援事業を模索・展開中。井の頭恩賜公園開園 100 年記念事業など様々な図録や「いのけん」（井の頭公園検定）など、井の頭、吉祥寺、三鷹地域の商工会議所や観光協会、商店街組合と密着した活動を紹介している。
- ・（株）ハウユウは、もっとも堺らしいモチーフをイラスト化して商標登録した【堺柄】を展示すると同時に、堺と紙にこだわるコンセプト・カフェ【紙 cafe produced by TOUR DE SAKAI】関連グッズを展示し、堺の地域情報の発信や堺柄を使った雑貨ブランド『堺カミモノ』や古墳グッズ等を紹介した。
- ・秋田印刷製本（株）は、農家とのコラボレーションから広がる新たな視界、地元農家支援の試みから始まった事業から気付くこと、地元秋田の名産品や企業とのコラボレーション企画、10 月オープン予定の新店舗等地域活性化への取り組みを紹介した。29 日には日本酒の試飲会を実施した。

- ・ 尼崎や元町商店街の活力と兵庫県立大学大学院の学生とのコラボが凸版印刷のデザイン企画サポートにより、観光マップ制作企画プロジェクトへ発展し、インバウンド需要拡大に成功した。それらの事例を紹介した。
- ・ (株) シンカ・コミュニケーションズは、スマホアプリ「CINUP」を使った新しい地域おこしプロモーションを提案した。イベント等で短期間だけ使える低価格アプリから、完全オリジナルの高機能アプリまで最適なプランを提案している。
- ・ 大日本印刷(株)は、「DNP 旅の“よりみち” アプリ YORIP (ヨリップ)」を出展。地域の本当の魅力を掘り起し引き伸ばしていく地域創生支援アプリということで、今までにない新しいタイプのメディアを提案した。
- ・ (一社) マーチング委員会は、全国のまちなみイラスト約 3000 点を基に始める日本初！地元発の地域創生プラットフォームを運営するマーチング委員会は「イラストでまち自慢」を合言葉に、全国各地域のイラスト百景コンテンツを発信し魅力的なまちづくりを紹介した。
- ・ (一社) ONE SAMURAI JAPAN は、インバウンドビジネスのゲートウェイとしてコミックアートによるポップカルチャーを活用しながら地域紹介サイトを各地域の印刷会社と連携した事業企画案を紹介している。

■地域文化貢献ゾーン

- ・ 凸版印刷(株)は、デジタル文化財による新たな価値創造をスローガンに進めているバーチャルリアリティ映像コンテンツの一つ『熊本城 不落の名城を読み解く』を Blu-Ray 映像で紹介し、地域文化資源の活用支援方法の在り方を鮮やかに示した。

■フリーゾーン

- ・ 文の里商店街ポスター展の紹介（画像提供協力：大阪商工会議所）
2013 年に実施した「文の里商店街ポスター展」は、商店街－民間企業－商工会議所との見事な連携により実現となった。本展示会では、その一部を画像紹介している。
- ・ スターティアラボ(株)は、誰でも簡単に AR（拡張現実）が作り放題のサービス「COCOAR（ココアル）」を出品・紹介した。
- ・ 社会福祉法人博光福祉会と凸版印刷(株)は、高齢者介護から幼児教育・子育て支援活動や地域社会に根差した幅広い福祉活動を展開しているが、本展示会では、オリジナルキャラクター「みんなのつばさくん」を活用した交流活動を紹介している。この活動は、2017 年度の「第 11 回キッズデザイン賞」受賞となった。
- ・ (株) ボーフォードは、長年にわたる食品ビジネスでの経験を元に、「美味しい」「楽しい」「安心に」を理念としたさまざまな食生活に関わる事業を展開しているが、地元大阪に限らず日本の各地域の果物や野菜、畜産等の食文化を広範に紹介している。
- ・ 岩岡印刷工業(株)は、薄紙印刷を得意として独自の事業領域を展開しているが、今般、独自開発した薄紙《パール・ベール》を商品化し、魅力溢れる地域ブランド商品開発など多目的利用に向けた提案を行っている。

- ・(公社) 日本印刷技術協会「印刷会社のフリーペーパー展」より
地域の情報や広告を中心に地域活性への貢献度も高く、地域社会との連携によるビジネスモデルも見られるなど興味深い内容を紹介している。
- ・日印産連のグリーンプリンティング事業は、地球環境保全という社会的貢献の観点から、初代グリーンプリンティング(GP)PR大使に小山薫堂氏に就任いただき、印刷業界の環境配慮自主基準を達成した工場・事業所を認定するとともに、同基準に適合した印刷製品へGPマークを表示する印刷総合環境配慮制度「GP認定制度」の取り組みを推進している。
- ・日印産連は、オフセット印刷工場において有機溶剤等による健康障害防止のため、あらかじめ決められたVOC気中濃度を越えると警報を発する「VOC警報器」XH-981Gを2015年に新コスモス電機株式会社と共同開発した。その概要や最近の活動を紹介した。
- ・日印産連の知的財産部会の検討事項より、《地域おこしに関わるキャラクター制作時における知的財産権問題 キャラクター採用前・採用後の権利関係の確認を！》を紹介した。(JFPI誌2017年10月号掲載「こんなときどうする?! 知的財産アドバイス」より)

《ワークショップ概要》

■文の里商店街活性化とデザインポスタープロジェクト

講師：(株)電通関西支社 日下慶太様

電通若手社員のデザインがシャッター商店街を掘り起こす力となった一例として、文の里商店街のほかに、伊丹市や大阪以外の地域での事例をご紹介いただき、ポスターというクラシックなメディアが未だにいかに大きな影響力を持っているか、実体験をもとに語られる日下氏の自信に満ちた話の内容に、多くの聴衆の共感を誘った。

■地域のブランド力を引き出す「アナログ力」

講師：(株)カンデザインアソシエツ 入山隆一朗様

インタビューア：凸版印刷(株) 関西 TIC 山本小百合様

デジタルの時代だからこそ、「アナログ」の力が圧倒的な鮮烈な感動を与えるものとなること、
「書」のパフォーマンスで証明された。地域のパッケージングデザインなどに極めて有効な書の力といえる。

■外国人観光客が従来の商売を劇的に変える。

講師：大阪府簡易宿所生活衛生同業組合理事長 山田純範様、同事務局長 杉浦正彦様
大阪西成区の簡易宿所の歴史的な動向を体験的な語り部(べ)として紹介して頂いたが、極めて稀有な資料となる貴重な内容であった。バブル崩壊後、日雇い労働者が激減。2004年に約9000人だった自社ホテルの外国人観光客を10年で10倍以上に増加した。

■ポップカルチャーで印刷会社のインバウンドビジネスを強力にサポート

講師：(一社)ONE SAMURAI JAPAN 代表理事 浦久保康裕様

展示内容の説明と同様になるが、インバウンドビジネスのゲートウェイとしてコミックアートによるポップカルチャーを活用しながら地域紹介サイトを各地域の印刷会社と連携した事業企画案を紹介するものだが、今後の実施計画のFSがポイントになる。

■尼崎と元町商店街の観光促進プロジェクト

講師：兵庫県立大学大学院経営学科准教授 秋山秀一様

地元地域と兵庫県立大学が一体となって取り組んだ成果として2つのプロジェクトが成果を産み出すことになったが、継続的に実施していくうえでカギとなるのはやはり資金源である。今後の継続的事業化に向けての検討課題である。

■印刷会社だからできる！地域ブランディングプロジェクト

講師：共同印刷(株)トータルソリューションオフィス 手塚美貴様

新潟県(糸魚川市)や鳥取県西部商工会他の地域ブランディング事例についての説明があった。目的や状況に応じたプログラムを設計して最適な体制を整え、地域のブランドづくりや商品開発、プロモーション施策、販促支援ツールの企画開発を展開する。ブランドの立ち上げ、商品開発、開発した商品の販売促進やECサイトなどを通じた新しい販路の創出を行い、地域活性化につなげている点などが紹介された。

展示会来場者数 2017.9.27～9.30

	27日(水)	28日(木)	29日(金)	30日(土)	合計
男性	103	67	84	28	282
女性	44	12	14	25	95
子供	13	0	1	5	19
合計	160	79	99	58	396

ワークショップ来場者数 2017.9.27～9.29

27日(水)	28日(木)	29日(金)	合計
46	36	43	125

■プレイベント シンポジウム、レセプション (2017年9月15日、太閤園にて)



東京理科大学専門職大学院教授 生越由美氏



(右から) 大門氏、山本氏、秋山氏、西原氏、生越氏



観光庁太田雄也課長補佐



近畿経済産業局松本じゅん室長補佐



電通関西支社日下慶太氏

■展示会 （2017年9月27日～30日 大阪国際交流センターにて）



オープニング



展示会場風景①



展示会場風景②



展示会場風景③



展示会場風景④



展示会場風景⑤

■ワークショップ（2017年9月27日～29日 大阪国際交流センターにて）



商店街活性化を熱心に語る電通関西支社日下慶太氏



入山隆一朗氏の書の「アナログ力」



西成の簡易宿所の大変貌を語る山田純範氏



印刷会社ネットワークを語る浦久保康裕氏



元町商店街の観光プロジェクトを語る秋山秀一氏



新潟他地域ブランディングを説明する手塚美貴氏